

令和3年度 広い道 No.40

発行日 令和3年10月26日

文責 安達才智



追い込みの一週間

文化祭の週になりました。文化ホールでの練習も始まり、練習にもさらに熱が入ってきたように思います。昨日は、雨に降られましたが、これからは秋晴れで文化センターとの往復も傘の心配がなさそうです。ありがたいことです。一方で、車だけには気をつけなければならぬと話しています。(10年位前には、図書館の近くで接触事故が起きています。)生徒が、根雨の町中を歩く姿を見られることがあるかもしれません。気が付かれることがあれば、御連絡をいただきたいと思っております。よろしく願います。



1階廊下のお雛様も先週から文化祭バージョンに装いを変えています。左側の舞台(上の写真)では、太鼓を打ち、右側の舞台では演劇を披露しています。緊張感と盛り上がりを感じられ、中学生の文化祭練習を応援してくれているように思います。



種子島とフランスとリトアニア



第5回 絵本の読み聞かせを10月21日(木)に行いました。中間テストが終わり、ほっと一息ついた時で、ちょっと心に余裕もあるのでしょうか。どの学年でも落ち着いて絵本を楽しむ様子かうかがえました。読書の秋を感じる読み聞かせでした。

1年生 『ほたる池のカッパ』 山形さん

種子島を舞台にカッパのとりまつと10匹のカッパとかが知恵比べをするお話です。作者は『こぎつね』の椋鳩十。少し古めがたく感じられる日本語や文章を味わってほしいと思われたそうです。きっと日本の昔話らしさを感じたことでしょう。

2年生 『そらいろ男爵』 緒形さん

フランスの絵本だからというわけではないので、絵はおしゃれでポップに感じます。舞台は戦争中で、大人が読んでも深く考えさせられる内容です。生徒も徐々に真剣になっていったとか。話の途中に出てくる『戦争と平和』(トルストイ作)も紹介していただきました。秋の夜長に……。



3年生 『パンのかけらとちいさなあくま』 木下さん

ほりの深い顔や針葉樹林の絵などが、北欧を感じさせてくれます。その一方で、貪しく善良なおじいさんやいじ悪な地主さん、「一束ならいい」との言葉に巨大な一束を作るところなど、日本の昔話や曾呂利新左衛門などのとんち話を連想させ、親しみを感じました。現実には超こらない昔話なら、この設定や展開を楽しく話されていました。

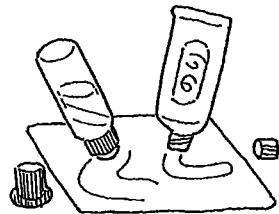
第58回 西部地区野鳥巣箱コンクール

日野町長賞 高橋 さん, 福井 さん

日野町教育委員会教育長賞 梅林 さん, 緒形 さん

1年生が技術の木材加工の実習で製作した巣箱を出品しました。鳥によって穴の大きさ等が違うため、どんな鳥の巣箱かも考えて製作をしました。

李先生から「生徒たちは、話を聞く時になると、すぐ寝てしまう。オソ、オソが速くて素暗らしい」とほめてくれた。うれしかった。



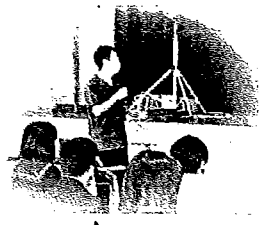
「ダメ！絶対！」に加えて 「もしもの時には…」



今年度3回目となる『命を考える授業』(略して『命の授業』と呼んでいきます)を10月20日(水)6限目に行いました。今回は、全校生徒を対象として「薬物乱用防止」をテーマに覚醒剤等の危険性と乱用防止策等について日野病院医師の李漢先生に話をさせていただきました。

『命を考える授業』とは、

日野町が鳥取大学医学部に委託している「地域包括ケアシステム構築事業」の取組の一つ。鳥取大学医学部と関わりのある日野病院のお医者さんを招いて、身体や心の発達や健康づくり、病気やケガへの対応等について話をさせていただいています。最先端の専門的なお話もあります。単なる知識の伝達ではなく、命や死、家族愛、生き方などについて深く考えることができる授業となっています。



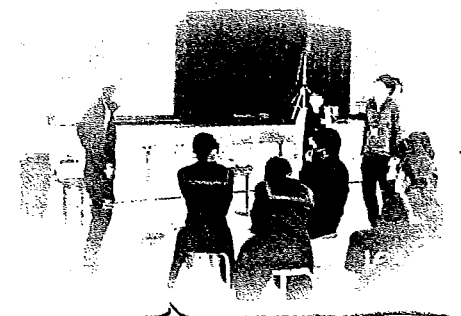
【お話の内容】

1. 薬物乱用の実態
2. 薬物乱用の影響
健康面と社会面
3. どうやって断る？
違法薬物の誘い

- ◎ 2020年の薬物専犯検挙数14,000件 (米子警察署管内 約20件)
- ◎ 未成年者検挙率 60% (成人よりも青少年の問題)
- ◎ 再犯率 60% (一度手を出すと断ち切ることが難しい)

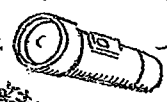
診察をされる時の服なので、「お医者さん」という感じを強く受けました。ちなみに私のお医者さんの先生です。

薬物を始めるきっかけは、若い年代で、「誘われて」「好奇心で」「その場の雰囲気」という理由が多いのだそうです。そこで、疑似体験により誘われたときに断れるということにチャレンジをしました。最初に誘われるまでの流れを教員が寸劇で示し、それをふまえて生徒が2人組になり、誘う側、誘われる側に分かれて「アドリア」で会話を進めていきました。誘う側は、強引に「グイグイ」と言えるのですか。断る側は、あきらめない相手に応えられなくなってしまうというペアが多く見られました。



左は、「ドラッグ」を勧める怖い先輩の上坂さんと西尾くん。右は、遊びに来た持田さんと長尾くん。長尾くんの後に隠れているのがムシャクシャした気持ちで危険に足を踏み入れてしまった気の弱いなまちゃん。アドリアの名演技で、生徒の笑いを誘いました。

この役割演技の後で「断り方を紹介しましたがなかなかこれがよいという正解は見つかりませんでした。これを受けて李先生は、最後のまとめで、「薬物に手を出さない」と強調しつつも、「もし困ったら(どうしようもなく、手を出してしまったら)信頼できる大人に相談しよう」と話されました。



今回の授業内容は鳥大の医学部生3名が考え、プレゼン等も作ってくれたのだそうです。(学生にとっては、単位にはならない活動で「ボランティア」の様なものなのですか、「やってみよう」と言って手を挙げたのだそうです。立派です。)それらを元に李先生が手直しをされ、今回の授業となりました。薬物に関する書物だけでなく、社会問題となった薬物に関する専業や統計資料、中学生への指導に関する教育書等、様々な情報を収集し、検討して作られたそうです。通り一遍のお話ではない工夫が多くあり、生徒たちにとっては、効果的な学習になったのだらうと思いました。

今年度の命の授業は、3学期にあと2回予定しています。(いずれも2年生です。)その内の1回には、心肺蘇生の体験もあります。何事にも興味を持って取り組む2年生なので、盛り上がるんだろうなと今から楽しみにしています。

最後は生徒会長

授業の最後は生徒会長の佐友くんが謝辞を述べました。自分か心に残った話の内容(県内にもある身近なことである等)とそれに対する自分の感想、今後の決意、そして授業のお礼を自分の言葉で話しました。さすが生徒会長。こんな姿も前生徒会長からしっかり引き継いでいるなと思いました。

薬物乱用防止の学習は…

薬物乱用防止の学習は、保健体育だけでなく、学級活動でも学習をするように計画をしています。また、県教育委員会からは毎年「薬物乱用防止教室」を開催するようにと指導があります。それだけ大切な学習です。